

為せば成る 為さねば成らぬ何事も
成らぬは人の為さぬなりけり

豊橋市立二川中学校
2年1組 学級通信
令和元年12月19日号

オリンピックの姿勢

2018年5月、競泳ジャパン
OP50メートルバタフライ決勝の池江
璃花子＝東京辰巳国際水泳場で



池江璃花子選手が自身の
ホームページに掲載した
直筆コメントの一部

今後の競技活動については医師と相談しながら、水中トレーニングが可能になり次第開始します。それまでは基礎体力をつけながら陸上トレーニングをしていく予定です。オリンピックについてですが、2024年のパリ五輪出場、メダル獲得という目標で頑張っていきたいと思っております。これからも応援をお願いします。



池江選手 退院

「パリ五輪メダル目標」

白血病と闘っている競泳女子の池江璃花子選手（21）＝ルネサンス、写真＝十七日、退院したと伝へ、二〇二四年パリ五輪で表彰台を目指す考えを自身のホームページで明らかにした。パリ五輪出場、メダル獲得という目標で頑張っていきたい」との直筆コメントを掲載した。マネジメント会社によると、今月上旬に退院した。池江選手が「急性リンパ性白血病」と診断されたことも公表された。当初は抗がん剤による治療を行ったが合併症を併発したため、正常な血液をつくる造血幹細胞を移植。症状やがん細胞の検出がなくなる寛解状態を維持したため、退院に至ったという。

今後通院は続ける。当面は陸上での運動で基礎体力づくりを心掛け「医師と相談しながら、水中トレーニングが可能になり次第開始します」とした。復帰の見通しは不明で、東京五輪出場は断念する。池江選手は「抗がん剤治療で吐き気が強い時や倦怠感もありましたが、そんな時とはにかく「大丈夫、大丈夫、いつか終わる」と自分を励まし続けました」と入院中の思いをつづつた。「失ったものが多いのでは思った方もいらっしゃると思いますが、私は病気になったこと、考えさせられること、学んだことが本当にたくさんありました」と前向きな姿勢を示した。

2月から入院生活をし、約10ヶ月の月日が経ちこの度退院することができました。辛くて長い日々でしたが、皆様からの励ましのメッセージを見て、早く戻りたいと強く思うことができました。応援してくださった方々や関係者の方々、そして家族には感謝の気持ちでいっぱいです。

入院中、抗がん剤治療で吐き気が強い時や倦怠感もありましたが、そんな時とはにかく「大丈夫、大丈夫、いつか終わる」と自分を励まし続けました。オリンピックを目前に控えていた中、突然大好きなプールを離れ、失ったものが多いのではと思った方もいらっしゃると思いますが、私は病気になったからこそ分かること、考えさせられること、学んだことが本当にたくさんありました。ネガティブ思考になる時もありましたが、まずは自分の気持ちをしっかり持たないといけないんだと思い治療に励みました。

今後の競技活動については医師と相談しながら、水中トレーニングが可能になり次第開始します。それまでは基礎体力をつけながら陸上トレーニングをしていく予定です。オリンピックについてですが、2024年のパリ五輪出場、メダル獲得という目標で頑張っていきたいと思っております。これからも応援よろしくお願いします。

2019.12.17 池江 璃花子
(原文のまま)

池田瑠花子さん。16才で前回大会のリオデジャネイロ五輪に出場。日本人最多の7種目に出場。2018年の日本選手権では計6個の日本記録を樹立。来年の東京五輪でも絶対に出場、金メダル候補であった時の急病。10か月の入院生活を経て退院しました。8か月後に迫った東京五輪は無理かもしれないが、4年後のパリ五輪へと明るく目標をもつ姿は応援したくなくなってしまふ。

